

# よりよく生きる

日本人のマナーや礼儀作法のすばらしさについては、サッカーワールドカップで日本人が試合後に会場のゴミ拾いを自主的に行っていたシーンで、海外からも大きな注目を集めました（それ以前から、日本の礼儀作法のすばらしさは、海外で認知されていましたが・・・）。

今回は、私たち日本人のマナーや礼儀作法について紹介したいと思います。



## 【日本のマナー、礼儀作法とは？】

日本のマナー、礼儀の基本は、私たち日本人が子供の頃から教えられる「他者に対する常識のある行動」を指します。

○ 初対面の人には敬語を使う      ○ 親切にされたらお礼を伝える  
といったような、人々が社会生活を円滑に進ませるための行動のことです。

さらに日本のマナー・礼儀の特徴は、表面的な行動だけでなく相手の気持ちにも重点が置かれています。これは、日本のマナー・礼儀の根底にある思想を見ていくと理解ができます。例えば、「相手を大切に思い、敬意を払う心」「相手を思いやる心」「自分自身を慎む謙虚な心」などが挙げられます。

これらの礼儀の心を形式化したものが、現在の日本のマナー・礼儀作法として浸透していったといえます。

## 【人間以外にも敬意を払う日本の礼儀の心】

礼儀作法は一般的に、人に対して行われる行為と思われそうですが、日本では、本来自分と関わる全ての事柄が対象になります。自分が外の世界と関わる時の敬意や愛情を込めた「まごころ」が、ときや場所、場合によって作法として表現されます。日本人は人間以外にも、神仏や道具、水や空気、そしてその場やそのときに対しても礼儀を行います。たとえば神社では参道の中央を歩くのではなく、遠慮の気持ちから脇を歩くことは神道の礼儀作法になりますし、漆塗りの器を引きずって移動させないことは、道具に対しての敬意や心遣いです。さらに夏の暑い日、夕方の打ち水は街の空気を涼めるための配慮で、おしぼりやお冷などは人の感じる温度感への配慮から生まれたサービスです。喪中の方に華やかなことやお祝いの場に誘わないなど、相手の置かれている状況に対しての礼儀もあります。複雑に感じる日本のマナー・礼儀作法ですが、大切なことは「まごころ」です。自分が相手のことを思うとき、自然と「こうしてあげたい」と感じたことがマナー・礼儀に繋がっていきます。

日本のマナーや礼儀作法は、日本独自の考え方から生まれていることが分かります。また、全ての事柄にまごころを込めるという思いから、自然発生的に生まれたものが、日本のマナーや礼儀作法なのかもしれません。日本独自の考え方から生まれたすばらしいマナーや礼儀作法を、私たちも継承していきたいですね。